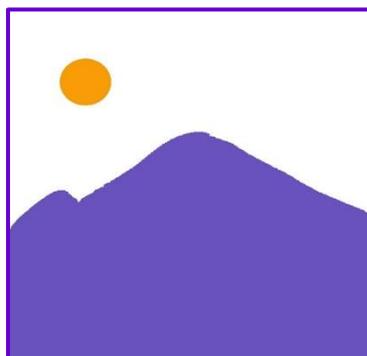


= 広島市合併 50 年記念プロジェクト =

「輝く！次の半世紀」

伴・大塚地区 まちづくりビジョン



ひやま
シンボル【火山】

令和4年(2022年)9月12日

伴・大塚地区コミュニティ推進協議会

目次

第1	趣旨	1
第2	策定の背景	1
第3	伴・大塚地区まちづくりワークショップ	4
1	ワークショップの開催状況	4
2	ワークショップの成果	5
第4	将来像（目指す姿）	8
第5	まちづくりの理念と目標	8
1	まちづくりの理念～まちづくりに取り組む基本的な考え方～	8
2	まちづくりの目標～取組の基軸～	8
第6	まちづくりを実現するための取組	10
1	取組の体系	10
2	取組の内容	12
	■まちづくり構想図	26
	■伴・大塚地区一帯の地形	28
第7	ビジョンの実現に向けて	29
1	全体的な推進体制	29
2	推進体制の強化と担い手づくり	29
3	ビジョンの進行管理	31
4	ビジョンの具体化や体制（態勢）づくりに向けた留意点	31
資料編		
資料1	：第1回・2回のワークショップで出された意見	33
資料2	：ビジョンの体系（一覧）	37



ひろしま西風新都（石内上空から北を望む）
出典：活力創造都市“ひろしま西風新都”推進計画 2013

第1 趣旨

伴・大塚地区まちづくりビジョン（以下「ビジョン」という。）は、この地区の将来像や理念、目標等を明らかにしたものです。当ビジョンを「**広島市合併 50 年記念プロジェクト**」と位置づけ、その実現に向けて「**輝く！次の半世紀**」を合い言葉に取り組みます。

住民、企業、行政が同じ問題意識を持ち、その上で、描いた次の半世紀の姿を目指して、地域の課題解決に向けた方向性を共有するとともに、三者が相互に協力・連携しつつ、ビジョンに位置づけた取組の実現を目指します。

第2 策定の背景

■昭和 46 年(1971 年)に広島市と合併～それからおよそ 50 年～

沼田町は、旧安佐郡の西端の丘陵部に位置しています。

今からおよそ 50 年前の昭和 46 年(1971 年)、西日本における大中核都市の一翼を担う、総合的・計画的な地域開発を進めることを目的に広島市と合併しました。この合併は、広島市が政令指定都市昇格を目指して推進した周辺町村との合併の第 1 号であり、沼田町は広島市の発展に寄与し、その後「ひろしま西風新都」（以下「西風新都」といいます。）と位置づけられました。

■西風新都の発展

西風新都は、安佐南区沼田地区・佐伯区石内地区で構成され、平成 2 年(1990 年)頃から都市づくりが本格的に進み、とりわけ平成 6 年(1994 年)のアジア競技大会開催に向けて、道路や上下水道等の基盤整備が進みました。

区域内では民間事業者による開発が進展するとともに、山陽自動車道五日市インターチェンジと広島自動車道広島西風新都インターチェンジ、沼田スマートインターチェンジが整備されました。市の中心部とは、広島高速 4 号線により約 15 分で結ばれ、軌道系公共交通機関である新交通システム「アストラムライン」が整備されるなど高いポテンシャルを有した都市になっています。そして、沼田町伴・大塚地区は西風新都とともに、目覚ましい発展を遂げつつあります。

■“迷惑施設”を受け入れ、市政の推進に協力してきた地区

また、市内の 3 分の 1 のごみ焼却を担う安佐南工場、10 炉の増設が計画されている火葬場の西風館、全市を対象にした大型ごみ破碎処理施設といった“迷惑施設”を受け入れ、市政の推進に協力してきた点はこの地区の特筆すべき事柄です。

■顕在化している諸課題

こうした発展の一方で、まちづくりに向けた課題も出てきています。平成 25 年(2013 年)に西風新都の計画が見直され、「活力創造都市“ひろしま西風新都”推進計画 2013」（以下「西風新都 2013」といいます。）が策定されましたが、火山山系の山地一帯において、民間業者による山林・農地の大規模な買収が進むなど、地域住民が懸念する問題が顕在化しています。また、地域をぐるりと取り巻く外環状線、内環状線という当初の構想は、その一部が整備されただけで、前述の火山山系の状況を含めて見通しが立たない状態に置かれています。

さらに、伴小学校・伴中学校においては、小中学生が遠く離れた住宅団地から、毎日バスでの通学を余儀なくされており、教育環境の悪化による学力・体力の低下が懸念されています。

■諸課題を解決し「輝く！次の半世紀」へ

このため、現在の諸課題を解決することにより、私たちのまち「西風新都」を、「住み、働き、学び、憩い、護る」の 5 つの機能の充実によって、「輝く！次の半世紀」として魅力ある、暮らしやすい、豊かなまちを目指していきます。

【伴・大塚地区（沼田町）の歩み（およそ半世紀）と現状、そしてビジョンづくりに向けて】

昭和 46 年(1971 年)、広島市と合併

西風新都としての開発・整備

- ・平成 2 年(1990 年)頃から本格的に進展
- ・平成 6 年(1994 年)、アジア競技大会の開催
- ・五日市 I C、広島西風新都 I C、沼田スマート I C
- ・広島高速 4 号線
- ・安佐南工場（ごみ焼却）、西風館（火葬場） など

伴・大塚地区の現状と主な関連計画

<伴・大塚地区の主な特性 (○) と留意点 (△) >

※例示：詳細は資料編を参照

道路・交通

- アストラムライン △広域公園前駅まで
- 高速 4 号線（トンネル）…都心と 15～20 分で連結
- 山陽自動車道・広島自動車道及び I C
- △道路・農道がせまい、通過交通が多い（抜け道）
- △交通渋滞（特に大塚駅北交差点）
- △外環状線・内環状線の整備は一部

歴史文化

- 多数の神社、火山、古代山陽道と駅（うまや）
- その他数多くの歴史文化資源
- △（あまり）知られていない歴史・文化

教育・スポーツ

- 大学、国際交流 ○スポーツ施設（広島広域公園）
- △サンフレ後のあり方（魅力づくり）
- △児童・生徒の学力・体力の低下、遠隔通学等

生活環境・自然

- 山、川、田園、緑、ホテルのすむ川 ○静かな環境
- 市域を対象とする施設（ごみ等）の立地（受け入れ）
- △身近な公園・広場が少ない（平地部）
- △土砂埋め立て、大型車などによる騒音
- △土砂災害警戒区域等

農業

- 田畑 △耕作放棄地
- 生産地と消費地を兼ね備えた地域

人口・コミュニティ

- 住宅団地開発による人口の増加
- △平地部における少子・高齢化
- △担い手確保の難しさ 等々

<主な関連計画>

『活力創造都市“ひろしま西風新都”推進計画 2013』

- ・平成 25 年 6 月策定 令和 2 年 12 月に一部変更

都市づくりの目的

優れた立地を生かし、既に快適な居住の場、貴重な産業集積の場となっている西風新都を、さらに市民が生き生きと暮らし、働き、集うような活力にあふれた拠点とすることにより、広島広域都市圏や中四国地方の成長・発展を牽引する。

都市機能

「住み、働き、学び、憩う」の複合機能が集積した拠点の形成を図るとともに、「護(まも)る(防災)」機能を導入する。

広島市に提言・要望、ワークショップ

- 令和元年(2019 年)12 月「西風新都の都市づくり等に関する提言」伴地区コミュニティ推進協議会
- 令和 2 年(2020 年)3 月「合併から 50 年西風新都新展開へ(要望)」伴地区コミュニティ推進協議会、伴小・伴中 PTA
- 令和 4 年(2022 年)6 月 18 日、7 月 17 日 伴・大塚地区まちづくりワークショップ



伴・大塚地区まちづくりビジョンの策定

- ・上記の提言・要望、ワークショップをもとに、将来像や理念・目標、取組等を明らかにした「伴・大塚地区まちづくりビジョン」を策定

参考資料：「活力創造都市“ひろしま西風新都”推進計画2013」の抜粋

<都市機能>

都市づくりの基本理念を踏まえ、都市基盤の充実を図るとともに、「住み、働き、学び、憩う」の複合機能を集積した拠点の形成を図る。

さらに、東日本大震災を教訓に、西風新都に住む人だけでなく広く市民が、安全に安心して生き生きと暮らせるよう、都市機能に「護る（防災）」機能を導入する。



※ビジョンにおける「地区」と「地域」

本ビジョンにおいて「地区」とは、次の二つの場面において使用します。

- ・具体的な土地の範囲としての「伴・大塚地区」、「本地区」、「伴地区」、「奥畑地区」等
- ・制度名である「地区計画」

上記以外で一般的な土地の範囲を示す場合は「地域」を使用します。また、「地域」には土地の範囲に加え、地域社会（コミュニティ）の概念も含むこととします。

第3 伴・大塚地区まちづくりワークショップ

1 ワークショップの開催状況

まちづくり（ビジョン）の実現には、地域住民の理解と協力、参加が不可欠であり、ビジョンの策定においては地域住民の意見を把握し、反映するため、2回のワークショップを開催しました。

■第1回まちづくりワークショップ

テーマ：まちの資源・問題点と取組のアイデア

参加者

- ・ワークショップ：15人（A班7人、B班8人）
- ・推進協議会：6人
- ・広島市：8人



第1回ワークショップ

■第2回まちづくりワークショップ

テーマ：まちづくりビジョン（案）の作成

参加者

- ・ワークショップ：15人（A班7人、B班8人）
- ・推進協議会：6人
- ・広島市：7人



第2回ワークショップ

【ワークショップの開催及びまちづくりビジョンの策定と具体化の流れ】



2 ワークショップの成果

2回のワークショップで出された意見及び成果は次のとおりです。

(1) 第1回まちづくりワークショップ

地区の強み（資源・魅力）、地区の問題点（困っていること、心配な点）・留意点に関して話し合った後、必要な取組について多くの意見が出されました。

- コミュニティ・連携・地域：国際平和文化…この地区としてどう担うか
- 人口・子ども：子どもの遊び場の拡大、子どもが自然とふれあう場所
- 学校・教育：通学路の安全確保、伴東付近は伴東小に変更（通学時間短縮）
- 居住環境、田園・学園：田園都市・学園都市、学生が憩えるまちづくり
- 道路・交通：交通渋滞・事故、計画道路の実現、歩車分離、スマート交通
- 都市計画・地域開発：火山山系・善當寺地区の開発、デジタル田園都市国家構想
- 防災・土砂災害・安全安心：埋立処分場が乱立、防災・医療サブ拠点、ヘリポート
- 農地・農業、山林：農地の防災面の役割の再認識、農や食文化の体験機会、特産品
- 自然：きれいな川・山、生きもの（ホタル等）のすむ環境の保全・活用
- 歴史文化：移民資料館、古い地名（災害に関わる地名等）の継承、歴史文化の継承
- その他：長期に滞在する平和リーダーを育てる、公共施設や環境の点検 など

（資料編 資料1 参照）

<第1回ワークショップ：令和4年(2022年)6月18日(土)>



(2) 第2回まちづくりワークショップ

将来像（目指す姿）、ビジョン実現に向けた考え方、優先的に取り組む事項に関して、多くの意見が出されました。

ア 将来像（目指す姿）とまちづくりの理念に関する意見

- ・各地区が連携し、伴・大塚全体でより良くする
- ・地域への愛着、住み、帰ってくるまち
- ・子どもの世代も住みよい環境
- ・新たな自給自足、自立的なまち
- ・少子化を考慮したまちづくり
- ・西風の範囲の概念がまちまち、戸山も含めた形で考えていく必要
- ・戸山、石内も生かしながら考える

イ ビジョンの実現に向けた考え方や体制（態勢）に関する意見

- ・楽しさを感じる活動・部会→それができる方法を見出す
- ・オンライン参加
- ・多様な意見を把握する受け皿（現状では声を届ける仕組みがない）
- ・学生・若い世代と上の世代の連携
- ・パソコン・ウェブサイトの上手な人・組織を組み込む（必要に応じて有償）
- ・広島市の支援（財政を含め）が不可欠
- ・広島市に賛同・合意を得る工夫（地域として）
- ・全体をまとめる組織が必要
- ・皆が納得できる検討プロセスを公開していく!!
- ・具体的なことを考えていける組織づくり
- ・若い人（高校生）の意見を取り入れるビジョンづくり
- ・地域のまちづくり部会との連携がどうなっているのか
- ・負担感は少なく必要なときに話せる組織に
- ・情報共有できる組織に
- ・テーマに応じた部会により重点を考える
- ・企業、事業者と協力して進める形づくり
→お互いの意見を伝え合える形
- ・中学生の職場体験などは受入可（企業）
- ・地域で働きやすくなるよう（大学でのインターンシップ）
- ・産官学でのつながりづくり
- ・国が進めたい政策を地域から出していく

ウ 優先的に取り組むこと・取り組んで欲しいこと

優先的に取り組むこと・取り組んで欲しいこととして、3人以上から指摘された取組は、次のとおりです。

- ・西風新都内の幹線道路の早期整備
 - ・大塚駅北交差点の立体化と大塚駅周辺における拠点づくり
 - ・平地部のまちづくり
 - ・ひろしま西風新都・学園都市
 - ・地域交通の充実・強化とスマート交通の実現
 - ・防災・医療のサブ拠点の整備
 - ・生きもののすむ環境の保全・活用
 - ・大型車両等から歩行者を守る対策
 - ・土砂埋立対策の実施
 - ・子どもの活動の場づくり
 - ・多様な人材が交流
 - ・参加するコミュニティづくり
- （資料編 資料1 参照）

<第2回ワークショップ: 令和4年(2022年)7月17日(日)>



ビジョンの体系と取組 (案)

広島市合併50周年記念祝賀活動(祝賀活動)の推進について

企業、行政が担ったまちづくり

古くからの風景に新しいまち並みが融合し、持続的に発展するまち

まちづくりの理念

歴史と自然・未来にたぐまちづくり

子どもたちがいきいきと学び活動できるまちづくり

だれもが住みたいと思える安心のまちづくり

公共施設が地域に響き渡るまちづくり

子どもたちがいきいきと学び活動できるまちづくり

だれもが住みたいと思える安心のまちづくり

公共施設が地域に響き渡るまちづくり

まちづくりの目標

取組

区分

WS 提案

取組	区分	WS	提案
1 広島高速4号線と山陽自動車道の連結			
2 大塚駅北交差点の立体化と大塚駅周辺における拠点づくり			
3 西風新都内の幹線道路(外環状線、内環状線)の早期整備			
4 奥田地区や春日野地区方面へのバイパスの整備			
5 火山系に広島市を担う未来型インフラパークを建設			
6 善富寺開発などの取組への住民参加			
7 芝地地区のまちづくり			
8 農業・林業の再生・起業への挑戦			
9 地域と企業の連携・交流			
10 加西市と西風新都・学園都市構想・計画の作成、大学間・地域との交流、人材活用、協働事業など			
11 デジタル田園都市国家構想の導入			
12 地域交通の充実・強化とスマート交通の実現			
13 防災・医療のサブ拠点の整備			
14 火山広域の周知と活用			
15 生きもの(バトール等)のすみ環境の保全・活用…ホテル鑑賞と商業施設の照明の改善、自然に配慮した川・水路づくりなど			
16 豊かな森の復活			
17 農地の保全・活用と農業の振興(十倉-阿佐)			
18 大塚・奥田の資源・魅力の再発見と活用(フィールドミュージアムづくり)			
19 地域探訪ルートづくり			
20 公共施設を軸としたエリアマネジメント			
21 サンフレッチェエ後の広域公園の魅力づくり			
22 環境公園の整備			
23 環境教育センター(安佐南工場)の整備			
24 安佐南 5-1 工場への人口付込込建物間の美観			
25 工場環境 5-2 市道通戸・大下線の沿線の美観づくり			
26 環境共生 5-3 大型ごみ搬入システムの抜本的な対策の実施			
27 美観づくり 5-4 脱化石燃料対策、地球温暖化対策の一環で、プラスチック類の燃費を焼却から再利用に転換			
28 5-5 広島一湯米線の拡幅工事、久地通りの未完成区間の早期完了			
29 6 西風新都 6-1 増設に伴う景観上の配慮			
30 6-2 基本設計の段階からの住民の意見の反映			
31 1 小学校、中学校の緊急総合対策(知育・体育・徳育の向上)			
32 2 安全 2-1 小学校、中学校の校舎、校庭の防災対策			
33 2 伴小 2-1 体育館・プール合体の新スポーツ施設の早期実現			
34 2-2 体力向上対策			
35 2-3 小学校校舎屋上の人工芝化(活動場所の確保)			
36 2-4 教師の業務環境の改善…アシスタント制度を導入			
37 2-5 教育態勢の強化…アシスタント制度を導入			
38 2-6 負担を取り除く…昼下校バス対策			
39 2-7 周辺環境の改善…小学校下を走る県道を生活道路に実装し、大型トラックの通行禁止			
40 3 中学校 3-1 格技場の新設と体育館の改善、グラウンドの拡張			
41 3-2 労働環境改善…増える教職員の働く環境整備			
42 3-3 学校環境の改善…駐車場対策			
43 3-4 生徒の安全対策…遠距離登校の生徒にバス通学補助			
44 4 子どもの活動の場づくり			
45 1 地域共生社会の実現…「6 コミュニティの活性化…」にも関連			
46 2 安全 2-1 「ゾーン30」の活用・普及などによる交通安全の安心・安心			
47 2-2 高齢者のための「健康ウォーキングゾーン」の整備			
48 2-3 「福祉のみちづくり」…一併、大塚地区の道を「福祉のみち」に改良			
49 2-4 大型車両等から歩行者を守る対策(交通マナー、注意喚起等)			
50 3 国の土砂災害防災センターの誘致			
51 4 奥田川・細田川流域の総合防災対策の実施			
52 5 広島西風山所直轄消防事業の併・大塚地区への適用、実施			
53 6 土砂災害対策の実施			
54 7 小学校、中学校の校舎、校庭一帯の防災対策(再掲4-1-2)			
55 1 沼田同庁舎の活用促進			
56 2 多彩な人材が交流・参加するコミュニティづくり			
57 3 地域行事の継承・見直し・魅力づくりと推進体制の再構築			
58 4 平和リーダが育ち平和を発信する環境づくり(広島市立大学の活用など)			
59 5 地域の公共施設や環境を点検する体制づくり…まちのバトールメンテナンス(維持管理・改善)			

第4 将来像（目指す姿）

「輝く！次の半世紀」を築くためには、これまでの地域の歩みや歴史文化を踏まえつつ、従来からの平地部を中心としたまちと丘陵部等の新しいまちが融合し、ともに持続的に発展し続けることが大切であると考え、次の将来像（目指す姿）を掲げます。

伴・大塚地区をこんなまちにしたい…

**古くからの風景に新しいまち並みが融合する、
住みよさ実感の自立的に発展するまち
～「住み、働き、学び、憩い、護る」と自然、歴史文化、農の融合～**

第5 まちづくりの理念と目標

1 まちづくりの理念～まちづくりに取り組む基本的な考え方～

将来像の実現に向けて、住民（地域団体）としても、次の理念（まちづくりに取り組む基本的な考え方・姿勢）によって、まちづくりを進めていきます。

○西風新都2013が描く新しいまちを実現していきます

・「住み、働き、学び、憩う」の複合機能が集積した拠点の形成と「護る(防災)」機能の導入

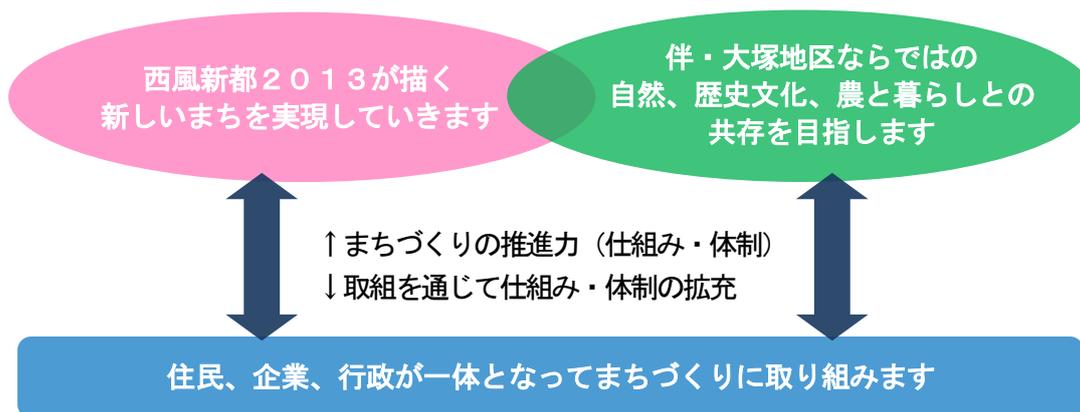
○伴・大塚地区ならではの自然、歴史文化、農と暮らしとの共存を目指します

・資源・個性を引き継ぎ・創り・生かすまちづくり

○住民、企業、行政が一体となり、周辺地域とも連携してまちづくりに取り組みます

・参加と連携・協働、支え合いの仕組みづくりと実践(まちづくりの推進力となる仕組み・体制)

【まちづくりの理念の構成】



2 まちづくりの目標～取組の基軸～

将来像の実現には、まちづくりの理念に基づいた各種の取組を実行する必要があります。

こうした取組については、全体像と個々の内容を住民等に分かりやすく提示し、納得してもらうことが大切であり、取組の方向性を示す柱を立て、体系的に示すことが効果的です。

このため、次のような6つの分野別の目標（取組の基軸…基本方針）を設定し、これらに個々の取組を位置づけることとします。

(1) “200 万人広島都市圏構想※1” の中核を担う西風新都の都市力づくり

道路交通をはじめとした都市基盤の整備、働く場の拡充、さらには「デジタル田園都市国家構想※2」の導入を広島市に提案し、具体化を働きかけ、“200 万人広島都市圏構想”の中核を担う西風新都の都市力づくりを目指します。

また、平地部のまちづくりに取り組むとともに、地域住民の意見を反映した開発団地の良好な環境づくりを促進します。

(2) 自然と歴史文化・農を未来につなぐまちづくり

本地区の資源・魅力を再発見しつつ、有形・無形の歴史文化、街中の緑と水の自然環境を守り、生かすとともに、歴史に刻まれた豊かな森の復活、農地の保全・活用や農業の振興に取り組み、歴史あるふるさとを未来につなぐまちづくりを目指します。

(3) 公共施設が地域に息づき資産となるまちづくり

エリアマネジメント※3の取組を実践する中で、数多く立地する又はこれから整備される公共施設のあり方や整備・修景及び活用・運営について提案し、これらが地域に息づき資産となるまちづくりを目指します。

(4) 子どもたちがいきいきと学び活動できるまちづくり

本地区の教育や子どもたちを取り巻く現状を踏まえつつ、小中学校の教育環境の改善、安全・安心な生活道路の確保、活動する場の充実などに取り組み、次世代を担う子どもたちがいきいきと学び活動できるまちづくりを目指します。

(5) だれもが住みたいと思える安心のまちづくり

行政と住民等の連携と役割分担のもとに、地域共生社会の実現とともに、防災・減災対策、防犯対策、交通安全の確保などに取り組み、だれもが住みたいと思える安心のまちづくりを目指します。

(6) コミュニティの活性化と支え合いのまちづくり

まちづくりの基本であり、推進力ともなる地域における住民相互の交流や活動への参加、人づくり、組織・体制の充実・強化などに取り組み、コミュニティの活性化と支え合いのまちづくりを目指します。

※1 200 万人広島都市圏構想

広島市の都心部からおおむね 60km 圏内の 28 市町は、広島広域都市圏を構成しており、現在の圏域人口は約 241 万人です。

しかし、2050 年に圏域人口は 200 万人を割り、それ以降も減少すると見込まれています。そのため各市町が一丸となってこれに立ち向かい、圏域経済の活性化と圏域内人口 200 万人超の維持を目指します。これが「200 万人広島都市圏構想」です。

※2 デジタル田園都市国家構想

令和 3 年(2021 年)、岸田内閣のもとで発表された「デジタル実装を通じて地方が抱える課題を解決し、誰一人取り残されずすべての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現する」という構想。デジタルの力を全面的に活用し「地域の個性と豊かさ」を生かしつつ、「都市部に負けない生産性・利便性」も兼ね備え、「心豊かな暮らし」と「持続可能な環境・社会・経済」の実現を目指すとしています。

※3 エリアマネジメント

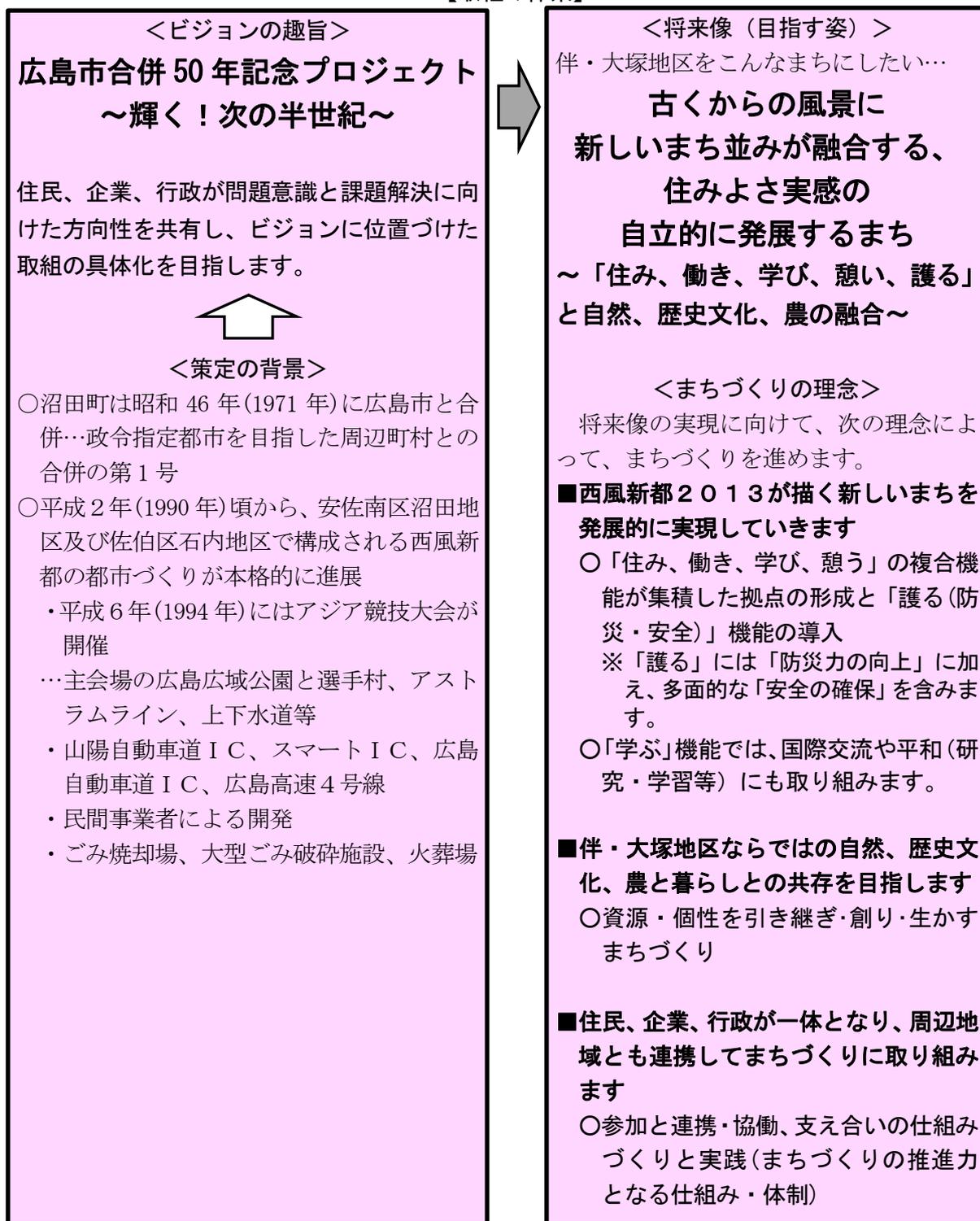
特定のエリアを単位に、民間が主体となって、まちづくりや地域経営(マネジメント)を積極的に行おうという取組です。

第6 まちづくりを実現するための取組

1 取組の体系

まちづくりの目標（取組の基軸…基本方針）のもとに主要な取組を設定し、ビジョンの体系の中で整理します。

【取組の体系】





1 “200万人 広島都市圏 構想”の中 核を担う西 風新都の都 市づくり	<ul style="list-style-type: none">①広島高速4号線と山陽自動車道との連結②大塚駅北交差点の立体化と大塚駅周辺における拠点づくり③西風新都内の幹線道路(外環状線、内環状線)の早期整備④奥畑地区や春日野団地方面へのバイパスの整備⑤火山山系に広島の将来を担う未来型のインダストリアルパークを建設⑥善當寺開発などの取組への住民参加⑦平地部のまちづくり⑧農業・林業の再生・起業への挑戦⑨地域と企業の連携・交流⑩ひろしま西風新都・学園都市の形成⑪デジタル田園都市国家構想の導入⑫地域交通の充実・強化とスマート交通の実現⑬防災・医療のサブ拠点の整備
2 自然と歴史文 化・農を未来 につなぐまち づくり	<ul style="list-style-type: none">①火山伝説や伝承、古くからの地名等の周知と活用②生きもの(ホタル等)のすむ環境の保全・活用③豊かな森の復活④農地の保全・活用及び農業の振興⑤農や食・食文化を学び、体験する機会の確保⑥伴・大塚・奥畑の資源・魅力の再発見と活用⑦地域探訪ルートづくり
3 公共施設が 地域に息づ き資産とな るまちづく り	<ul style="list-style-type: none">①公共施設や土地利用、交通等のエリアマネジメント②サンフレッチェ後の広域公園の魅力づくり③環境公園の整備④環境教育センター(安佐南工場)の整備⑤安佐南工場の環境共生・美観づくり<ul style="list-style-type: none">-1工場への入口付近から建物間の美観-2市道瀬戸・大下線の沿線の美観づくり-3大型ごみ搬入システムの抜本的な対策の実施-4脱化石燃料対策、地球温暖化対策の一環で、プラスチック類の処分を焼却から再利用に転換-5広島・湯来線の拡幅工事の早期完了⑥西風館の拡張における美観づくり<ul style="list-style-type: none">-1増設に伴う景観上の配慮-2基本設計の段階からの住民の意見の反映
4 子どもたち がいきいき と学び活動 できるまち づくり	<ul style="list-style-type: none">①小・中学校共通対策<ul style="list-style-type: none">-1小・中学校の緊急総合対策(知育・体育・徳育及び防災・安全教育の向上)-2小・中学校の校舎、校庭一帯の防災対策-3地域の歴史文化や自然にふれあう教育の推進②小学校対策<ul style="list-style-type: none">-1体育館・プール合体の新スポーツ施設の早期実現-2体力向上対策-3小学校校舎屋上の人工芝化(活動場所の確保)-4教師の業務環境の改善及び教育態勢の強化-5負荷を取り除く…登下校バス対策-6周辺環境の改善…交通安全対策-7小学校区の見直しによる遠距離通学対策③中学校対策<ul style="list-style-type: none">-1格技場の新設と体育館の改築、グラウンドの拡張-2労働環境改善…増える教職員の働く環境整備-3学校環境の改善…駐車場対策-4生徒の安全対策…遠距離登校の生徒にバス通学補助④防災対策・通学路の安全対策⑤子どもの活動の場づくり
5 だれもが住 みたいと思 える安心の まちづくり	<ul style="list-style-type: none">①地域共生社会の実現…「6 コミュニティの活性化…」にも関連②安全・安心に登校でき、気軽に健康ウォーキングできる歩行環境づくり<ul style="list-style-type: none">-1「ゾーン30」の活用・普及などによる交通安全の確保-2高齢者のための「健康ウォーキングゾーン」の整備-3“福祉のみちづくり”…地区の道を“福祉のみち”に改良-4大型車両等から歩行者を守る対策(交通マナー、注意喚起等)③国の土砂災害防災センターの誘致④大塚川・奥畑川・細坂川流域の総合防災対策の実施⑤広島西部山系直轄砂防事業の伴・大塚地区への適用、実施⑥土砂埋立対策の実施⑦防災・安全を学び・体験する機会の確保⑧小・中学校の校舎、校庭一帯の防災対策(再掲4-①-2)
6 コミュニティ の活性化と 支え合いの まちづくり	<ul style="list-style-type: none">①沼田合同庁舎の活用促進②多彩な人材が交流・参加するコミュニティづくり③地域行事の継承・見直し・魅力づくりと推進体制の再構築④平和リーダーが育ち平和を発信する環境づくり(市立大の活用など)⑤地域の公共施設や環境を点検する体制づくり…まちのパトロールとメンテナンス

2 取組の内容

取組ごとに内容を明らかにするとともに、その主体等、及び西風新都2013における5つの機能との関係を明らかにします。

なお、早期に着手・実施すべきと考える取組については、「★」印を付けています。

また、主体等における「行政」については、地域（伴・大塚地区コミュニティ推進協議会等）として「行政」に提言する事項となります。

表1 取組の内容（1/13）

まちづくりの目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能					
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る	
（1） “200万人広島都市圏構想”の中核を担う 西風新都の都市力づくり	①広島高速4号線と山陽自動車道との連結～“とん切れ高速道”を解消して広島の中核機能を強化～★	広島高速4号線を延伸し山陽自動車道へ直結することで「西風新都」の機能が一層強化される。外環状線（市立大～伴東間）を絡めて整備を図る。	○	◎						
	②大塚駅北交差点の立体化と大塚駅周辺における拠点づくり～西風新都の最大の難所を改善し、西風新都内外の交通の一層の円滑化、そして拠点づくり～★	西風新都の玄関ともいえる大塚駅北交差点では慢性的な交通渋滞が発生しており、西風新都内の流動性を鈍らせるネックとなっている。この西風新都の最大の難所を改善し、西風新都内外の交通の一層の円滑化を図る。 また、大塚駅周辺における拠点づくりを進める。	○ ◎ （拠点づくり）	◎						
	③西風新都内の幹線道路（外環状線、内環状線）の早期整備 ・外環状線「善當寺」工区の早期開通 ・外環状線「市立大～伴東間」の早期開通（自転車通学の安全）	火山山系の外環状線（市立大～伴東間）を外環状線善當寺工区と並行して早期の開通を図る。民間業者による火山山系の乱開発を防ぎ、広島の副都心らしいまちづくりへ思い切った舵の転換を行う。 令和12年(2030年)とされている外環状線善當寺工区の早期の完了（開通）を図る。 沼田PAスマートICの開通によって、沼田高校の生徒の登下校が危険になっており、沼田高校生の自転車通学の安全性を高めるために外環状線（市立大～伴東間）の早期開通に取り組む。	○	◎						

★：早期に着手・実施すべきと考える取組

主体等：◎取組主体 ○協力・支援

西風新都2013：アミ…特に関係する機能

表1 取組の内容 (2/13)

まちづくりの目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(1) “200万人広島都市圏構想”の中核を担う西風新都の都市力づくり	④奥畑地区や春日野団地方面へのバイパスの整備	<p>恵下埋立地対策として、恵下への車両を通すためのバイパス道路を奥畑地区に建設する。</p> <p>奥畑地区に入るところから奥畑川右岸の山地を通って北上させ、桜ヶ塚につなぐコースで、奥畑地区の集落を通らないようにする。</p> <p>恵下へのトラックの約4分の1が奥畑経由となっており、バイパスは必須の対策。</p> <p>春日野団地方面へのバイパス整備を検討する。</p>	○	◎					
	⑤火山山系に広島の将来を担う未来型のインダストリアルパークを建設～新しい発展の基盤づくり～★	<p>モノづくりを中心に発展してきた広島に未来型の新たな産業を育成するためのインダストリアルパークの実現を図る。</p> <p>市立大情報科学部を核に“瀬戸内シリコンバレー”を目指して取り組む。</p> <p>また、その他の拠点機能についても検討する。</p> <p>こうした取組は、この地区や広島市における人材の確保・定着、及び産業の構造改革につながる。</p>	○	◎					
	⑥善當寺開発などの取組への住民参加 ★	<p>長年の懸案だった「善當寺地区」の開発プロジェクトに地域住民が参画し、旧来地区と開発地区とが有機的に結びついた新しいまちづくりを目指す。</p>	◎	◎					
	⑦平地部のまちづくり	<p>計画誘導地区（平地部）においては、地区計画制度等を活用し、地域住民が主体となって計画的にまちづくりを進める。</p>	◎	◎					
	⑧農業・林業の再生・起業への挑戦	<p>農地や山林の保全・活用及び担い手の確保・育成に努めつつ、農業・林業の再生・起業を促進する。</p>	◎	◎					
	⑨地域と企業の連携・交流	<p>地域（地域団体）と企業との意見交換等の機会を確保する。</p> <p>地域と企業、及び行政が連携した交流事業などの実施を図る。</p>	◎	◎					

表1 取組の内容 (3/13)

まちづくり の目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(1) “200万人 広島都市 圏構想”の 中核を担う 西風新都 の都市力 づくり	⑩ひろしま西風新都・ 学園都市の形成…構 想・計画作成、大学 間・地域との交流、 国際交流、平和、人 材育成・活用、協働 事業など	大学等の立地など、西風新都の特 性を生かしながら、ひろしま西風 新都・学園都市の構想・計画を作 成する。 大学間・地域との交流、国際交 流、平和に関する研究、人材の育 成・活用、住民（市民）が国際交 流や平和などを学び・体験できる 機会の確保などの具体化を目指す とともに、大学等と地域、行政な どの協働事業の具体化を図る。	◎	◎					
	⑪デジタル田園都市国 家構想の導入	西風新都などを対象にデジタル田 園都市国家構想の導入を図る。	◎	◎					
	⑫地域交通の充実・強 化とスマート交通 ^{※4} の実現	通学・通勤の利便性の充実・強化 に加え、脱炭素化を図る交通シス テムであるスマート交通 ^{※5} の導入 実現に取り組む。	◎	◎					
	⑬防災・医療のサブ拠 点の整備	西風新都の防災・医療の拠点であ り、広島市全体でのサブ拠点の形 成に取り組む。 また、ヘリポートなど緊急時に迅 速・的確に対応できる施設整備や 体制の確保を図る。	○	◎					

※4 スマート交通

人の移動において脱炭素化を図る交通システムで、移動や交通を司るスマートモビリティが必要となる。スマートモビリティには自動運転車、カーシェアリング、ライドシェアリング、道路のIoT（モノのインターネット）センサー、MaaS（Mobility as a Service）などがある。

MaaS とはバスや電車、タクシー、飛行機など、すべての交通手段による移動を、ひとつのサービスでシームレスに完結させ、人々の移動の利便性を上げるサービスを指す（スマートフォンのアプリ活用など）。

表1 取組の内容 (4/13)

まちづくりの目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(2) 自然と歴史文化・農を未来につなぐまちづくり	①火山伝説や伝承、古くからの地名等の周知と活用 ★	火山伝説や地域の伝承、古くからの地名等を調べ記録し、分かりやすく周知・情報発信するとともに、防災（災害等を伝える地名・言い伝え）を含めまちづくりの資源として活用する。	◎	○					
	②生きもの（ホタル等）のすむ環境の保全・活用 ★	鳥獣被害に留意しつつ、川や水辺、森などに生息・生育する動植物の調査や情報提供、見学・学習機会の確保などに努める。 ホタルについては、照明などで生息や鑑賞の機会が制約されないよう、地域で話し合い適切に対処する。	◎	○					
	③豊かな森の復活 ★	本地区の森・森林が担ってきた歴史（杣（そま）：巖島神社で使用する木材を育てた歴史など）を再認識し、未来に向けた豊かな森の復活を目指す。 併せて、火山山系の乱開発を防ぐ。	◎	◎					
	④農地の保全・活用及び農業の振興…都市内・都市近郊農業の構築	農地の所有者等と連携し、生産緑地制度※5の活用などを進めつつ、その保全・活用を促進し、地域に根づく農業振興を目指す。 さらに、農地の防災機能を再認識し、農地の保全・整備に努める。	◎	◎					
	⑤農や食・食文化を学び、体験する機会の確保	農業従事者や関係団体（JA、商工会）、商業者、学校、食育関係者などが連携し、イベント等を含め農や食・食文化を学び、体験する機会の確保を図る。	◎	○					
	⑥伴・大塚・奥畑の資源・魅力の再発見と活用 ★	伴・大塚・奥畑の自然や歴史文化等の資源・魅力の再発見を進めつつ、それらを学び楽しめる機会を確保する。	◎	○					
	⑦地域探訪ルートづくり ★	「自然や歴史文化等の体験機会の確保」と連携させて、それらを巡るルートを設定し、活用を図る。	◎	○					

※5 生産緑地制度

市街化区域内の農地を計画的に保全し、緑豊かで良好な都市環境をつくることを目的として、都市計画に「生産緑地地区」を定める制度。

生産緑地に指定された場合、当該農地において営農の義務、建築行為等の制限、税負担の軽減などの措置を受ける。

表1 取組の内容 (5/13)

まちづくりの目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(3) 公共施設が地域に息づき資産となるまちづくり	① 公共施設や土地利用、交通等のエリアマネジメント	安佐南工場及び西風館が、アクセスの円滑・安全化を含め、周辺環境や景観と調和し、地域の誇れる資産となるよう、エリアマネジメントを取り入れて、整備・充実を目指す。 また、サンフレッチェ後の広域公園の魅力づくりにおいても、エリアマネジメントを取り入れたまちづくりを進める。 ※下記の②～⑥及び地域開発や交通においてエリアマネジメントの観点を取り入れる。	◎	◎					
	② サンフレッチェ後の広域公園の魅力づくり ★	サンフレッチェの拠点が広域公園からサッカースタジアム（中央公園）に移ることを踏まえ、広域公園や伴・大塚地区（まちづくり）における「ポスト・サンフレッチェ」構想の策定とその具体化を目指す。	◎	◎					
	③ 環境公園の整備 ★	開発に着手した「善當寺」地区に懸案の「環境」をテーマにした公園を整備する。 学校教育・社会教育の学習の場としての活用に加え、子どもから大人まで、グループで、家族連れで楽しみながら環境について学ぶゾーンを確保する。	○	◎					
	④ 環境教育センター（安佐南工場）の整備 ★	環境公園の機能の一つとして、安佐南工場に「環境教育センター」を整備する。 「ゼロエミッションシティ広島」（廃棄物ゼロの広島）を掲げている広島市として、市民が「ごみゼロ」への道、脱化石燃料、地球温暖化防止という地球的に動いている課題を学び、行動する環境教育センターを目指す。	○	◎					
	⑤ 安佐南工場の環境共生・美観づくり	⑤-1 工場への入口付近から建物間の美観 ★	市道瀬戸・大下線の入口から工場玄関までの区間を対象に良好な景観に改善する。	○	◎				

表1 取組の内容 (6/13)

まちづくりの目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能					
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る	
(3) 公共施設が地域に息づき資産となるまちづくり	⑤ 安佐南工場の環境共生・美観づくり	⑤-2 市道瀬戸・大下線の沿線の美観づくり ★	広島市内の三分の一をカバーする安佐南工場への道とその周辺はいかにもごみ処理場を思わせる荒れた、美観とはほど遠く、全国的にも逆に珍しい状態。 この工場には全市から市民が廃棄物の処分のために来る場所であり、伴地区へのイメージダウンにつながり、地元として耐えがたい。何としても椎原川を含めて美観対策を進める。	○	◎					
		⑤-3 大型ごみ搬入システムの抜本的な対策の実施 ★	安佐南工場に併設された大型ごみ破砕処理場への持ち込みについて ①溢れた車の渋滞が地元住民の生活を侵害しないよう搬入件数を制限、②搬入市民への対応を職員から警備会社に委託し、労働環境を改善、③市道瀬戸・大下線を3車線にして渋滞が起きても住民生活の侵害を防ぐ、などの対策を急ぐ。	○	◎					
		⑤-4 脱化石燃料対策、地球温暖化対策の一環で、プラスチック類の処分を焼却から再利用に転換 ★	令和2年度(2020年度)から事業系プラスチック類の焼却処分を開始する計画を見直し、徹底的な再利用へ転換するように政策の転換を推進する。 そのためには事業所、企業にプラスチック類の再利用への積極的な取組を義務づけるなど脱プラ・再利用の推進、廃棄物の減量の両面から安佐南工場の負担を軽減させる対策を推進する。	○	◎					
		⑤-5 広島・湯来線の拡幅工事の早期完了 ★	広島・湯来線の未着工区間(拡幅工事)を早期に完了させる。	○	◎					
		⑥ 西風館の拡張における美観づくり	⑥-1 増設に伴う景観上の配慮 ★	令和6年度(2024年度)完成を目途に進められている西風館の増設は、既存の建物のコンセプトを基調とし、周辺に目立たない、そして景観に配慮した施設とする。	○	◎				
	⑥-2 基本設計の段階からの住民の意見の反映 ★		既存の西風館の際の手法に学び、基本設計の段階から、地域住民の意見を十分に聞き入れ、事業を進める。	◎	◎					

表1 取組の内容 (7/13)

まちづくりの目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(4) 子どもたちがいきいきと学び活動できるまちづくり (※)	① 小・中学校共通対策	①-1 小・中学校の緊急総合対策(知育・体育・徳育及び防災・安全教育の向上) ★	◎	◎					
		①-2 小・中学校の校舎、校庭一带の防災対策 ★	○	◎					
		①-3 地域の歴史文化や自然にふれあう教育の推進 ★	◎	◎					

※「(4) 子どもたちがいきいきと学び活動できるまちづくり」について

小・中学校の校舎、校庭一带の防災対策などの取組の内容については、伴小・伴中に関して記載しているが、防災対策や通学路の安全に関する事など、伴南小・伴東小・大塚小・大塚中学校も共通する課題があれば、それに取り組んでいく。

表1 取組の内容 (8/13)

まちづくり の目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(4) 子どもたちがいきいきと学び活動できるまちづくり	② 小学校対策	②-1 体育館・プール合体の新スポーツ施設の早期実現 ★	○	◎					
	自由に遊べる環境	②-2 体力向上対策 ★	特に体力面では子ども達が自由に走り回れ、体を動かすことが出来る環境が奪われている現実を直視し、急ぎ対策を行う。	○	◎				
		②-3 小学校校舎屋上の人工芝化(活動場所の確保) ★	伴小学校の鉄筋造りの校舎の屋上を改修して、児童の遊び場として確保する。(校舎周辺に空き地がないため、屋上に高いネットを取付け、人工芝を張って遊び場として活用)	○	◎				
	教育態勢	②-4 教師の業務環境の改善及び教育態勢の強化…アシスタント制度を導入 ★	教職員が児童の指導に集中できる環境をまず整えること。教師がクラス子ども達としっかり向き合え、一人ひとりと心を通じ合い、やる気を引き出す、そんな教育環境の整備を急ぎ、学力の劇的アップを目指す。 また、多くの児童が狭い敷地に押し込められた超過密状態に教師の負担は増すばかり。教師が教育に専念できるように業務補助員(アシスタント)を配置するとともに、教育態勢の強化をし、その上に全体的な教育力を高める取組を続け、全体の教師力アップを急ぐ。	○	◎				
		②-5 負荷を取り除く…登下校バス対策「教師のバス引率業務からの解放」 ★	伴小学校では、児童の約半数(約480人)が17台のバスに分乗して通っている。これには朝は管理職が、下校時は教職員が引率してバスに乗せて帰宅させている。これが児童にも、教職員にも大きな負担となって、他校では全国的にも無いような現象を生み、教職員会議も満足に出来ない状態となっている。教師が教育に専念できるように「バス引率業務からの解放」を1日も早く実現させる。	○	◎				

表1 取組の内容 (9/13)

まちづくりの目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能						
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る		
(4) 子どもたちがいきいきと学び活動できるまちづくり	② 小学校対策	②-6 周辺環境の改善…交通安全対策:伴小学校下を走る県道伴・広島線の専念寺一伴小学校下一新細坂(沼田消防出張所前)間を生活道路に変更し、大型トラックの通行禁止★	大型トラックが猛スピードで騒音を上げて走り、とても通学路、学校のそばとは思えない環境。かつて幹線道路がこの県道(伴・広島線)一本だった時代、学校の直下で通学路であったことから「30km」だった。今はアストラムライン線(片側2車線)が幹線道路の役割を担っており、県道は幹線道路から生活道路に変更し、速度も時速30km、大型車の通行を禁止し、児童・生徒の安全、静かに勉学できる環境、歩行者・住民優先の道にする。	○	◎						
		②-7 小学校区の見直しによる遠距離通学対策★	小学校児童の遠距離通学の解消や学校規模(児童数)の適正化に向け、小学校区の見直しを検討する。また、遠距離通学による交通事故等の危険性の軽減も考慮する。	○	◎						
	③ 中学校対策	③-1 格技場の新設と体育館の改築、グラウンドの拡張★	伴小学校で長く続いた「過密」の流れが令和2年度(2020年度)から中学校に本格的に押し寄せている。この過密化の対策として格技場をまず建設するとともに、生徒増に対応した体育館の改築とグラウンドの拡張を進める。(地元で土地の提供を用意)	○	◎						
		③-2 労働環境改善…増える教職員の働く環境整備★	生徒の急増によって教職員が増加し、どうしても教職員室などの環境整備が急務になっている。生徒指導への意欲、集中力を涵養する面でも重要であり、適切な対策を行う。	○	◎						
		③-3 学校環境の改善…駐車場対策★	生徒の安全上の観点から、下校時に生徒を迎えに来る保護者の車をとめる場所が校内には無く、学校周辺に溢れかえって混乱を起こしている。コンビニやスーパーマーケットから保護者の駐車への苦情が相次いでおり、対策が急がれる。	○	◎						

表1 取組の内容 (10/13)

まちづくり の目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(4) 子どもたちがいきいきと学び活動できるまちづくり	③ 中学校対策 ③-4 生徒の安全対策…遠距離登校の生徒にバス通学補助★	若葉台の生徒の通学路は人家がほとんどないような山道。クマやイノシシが出没する地域であり、特に秋から初春にかけては暗い時間帯に家路を急ぐため痴漢などの被害も懸念される状況である。自ずと心配する保護者が車で迎えに行くということが、スーパーなど周辺に迷惑をかける結果にもなっており、小学生と同じバス通学への補助を実現する。	○	◎					
	④ 防災対策・通学路の安全対策	防災対策や通学路の安全対策など小・中学校の課題に取り組む。	○	◎					
	⑤ 子どもの活動の場づくり	身近な公園・広場の整備・充実、農地（田んぼ）を生かした活動機会の確保に努める。	◎	◎					

表1 取組の内容 (11/13)

まちづくり の目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(5) だれもが 住みたい と思える 安心のま ちづくり	①地域共生社会の実現 「(6) コミュニティの活性化と支え合いのまちづくり」にも関連	制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指す。	◎	○					
	②安全・安心に登校でき、 気軽に健康ウォーキングできる歩行環境づくり	②-1 「ゾーン 30」の活用・普及などによる交通安全の確保 ★ 「西風新都みらい会議」を組織し、警察庁の「ゾーン 30」制度を活用した交通安全対策に取り組んでいる。 こうした取組を継承しながら、「行政・警察・地域」が三位一体となった優しい生活環境づくりを進める。	◎	○					
	②-2 高齢者のための「健康ウォーキングゾーン」の整備 ★	沼田合同庁舎のすぐ西側を流れる安川の大原上橋と上流の筏地橋の間の両サイドの河川管理道全体を「健康ウォーキングゾーン」として河岸公園を含めて整備。沼田老人いこいの家、沼田公民館、沼田公園を中心に高齢者が歩きながら健康づくりを楽しむ事業を地元のまちづくりとして興す。既に伴東学区の下向地区では安川右岸の管理道路を舗装し、地域の高齢者がウォーキングに励んでおり、両方の一体的な整備を進める。	○	◎					
	②-3 “福祉のみちづくり”…県道広島豊平線の松宗・下向地区の歩道を中心に地区の道を、高齢者や身体の不自由な人が歩きやすい“福祉のみち”に改良 ★	スーパーやホームセンター、大型ドラッグストア、レストラン、喫茶、そして診療所、薬局などが立ち並ぶ地区の県道広島豊平線の歩道が高くなったり低くなったり、所によっては斜めに傾いたりしている。歩行補助の車を押して歩く高齢者は、いつ転んで車道に倒れるか分からない。まして自転車での通行は危険である。こうした危険なみちは本地区の旧来のほとんどの地域に存在する。 高齢者も身体の不自由な人も安心して利用できる“福祉のみち”に改良する。	○	◎					
	②-4 大型車両等から歩行者を守るため、運転者、歩行者の双方に交通マナーの向上や注意喚起を呼びかけるとともに、交通安全に関する学習機会等の確保に努める。 ★	大型車両等から歩行者を守るため、運転者、歩行者の双方に交通マナーの向上や注意喚起を呼びかけるとともに、交通安全に関する学習機会等の確保に努める。	◎	◎					

表1 取組の内容 (12/13)

まちづくり の目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(5) だれもが 住みたい と思える 安心のま ちづくり	③国の土砂災害防災セ ンターの誘致	毎年のように繰り返す豪雨による土砂災害。「土砂災害防止法」制定の発端となったのが伴地区を中心に大被害をもたらした「6・29災害」。地震は神戸、火山は秋田とそれぞれ自然災害を防災の視点から研究するセンターが設置されており、土砂災害多発県の広島においては、火山山系に国立の研究センターの誘致を図る。	○	◎					
	④大塚川・奥畑川・細坂 川流域の総合防災対 策の実施 ★	「6・29」をはじめ過去幾多の大雨、洪水による災害を経験してきた奥畑川・細坂川。伴南から伴西、伴北と両河川流域の山地部分の開発がめざましく進み、過去の経験則では通用しない豪雨に見舞われると大変な災害を招くことは確実。奥畑川、細坂川の河川改修を急ぐとともに、南隣の石内地区の梶毛川（ダム、河川改修）に学び、小水力発電などのダムを含んだ総合防災対策の実施を図る。また、大塚川流域についても、奥畑川、細坂川と連動させて、総合防災対策を検討する。	○	◎					
	⑤広島西部山系直轄砂 防事業の伴・大塚地 区への適用、実施 ★	「8・20」災害の八木、緑井、安古市、祇園地区で続いている「広島西部山系直轄砂防事業」を大塚・伴南、伴、伴東に散在する土砂崩壊危険区域に適用、実施を図る。	○	◎					
	⑥土砂埋立対策の実施 ★	伴・大塚地区においては、現在、5箇所林地開発許可による土砂埋立が行われている。こうした現状を踏まえ、生活環境や自然環境の保全、交通安全の確保に取り組むとともに、将来の土地利用のあり方などを検討する。	◎	◎					
	⑦防災・安全を学び・体 験する機会の確保	災害を未然に防いだり、災害時における避難等を迅速に行ったりできるように、防災・安全に関する学習や体験機会の確保・充実を図る。	◎	◎					
	⑧伴小・中学校の校舎、 校庭一帯の防災対策 (再掲)	※(4)①-2を参照	○	◎					

表1 取組の内容 (13/13)

まちづくりの目標	主な取組	取組の内容	主体等		西風新都 2013 の機能				
			地域	行政	住む	働く	学ぶ	憩う	護る
(6) コミュニティの活性化と支え合いのまちづくり	①沼田合同庁舎の活用促進 ★	沼田合同庁舎の機能や空間、催し等に関する情報提供を行いながら、施設の有効活用を促進する。	◎	◎					
	②多彩な人材が交流・参加するコミュニティづくり ★	住民の意見・思いの把握に努めながら、情報の共有化や人材の活用、参加したくなる行事の開催や交流機会の確保などに取り組む。	◎	○					
	③地域行事の継承・見直し・魅力づくりと推進体制の再構築 ★	多様な世代（住民）の主体的な参加が得られる仕組みや環境づくりに努め、伝統的な行事の継承や復活、新たな行事の開催などを目指す。	◎	○					
	④平和リーダーが育ち平和を発信する環境づくり（市立大の活用など） ★	「ひろしま西風新都・学園都市の形成」と一体的に、市立大等と連携しながら、学生や研究者だけでなく、住民からも平和リーダーが育ち平和を発信できるように取り組む。	◎	◎					
	⑤地域の公共施設や環境を点検する体制づくり…まちのパトロールとメンテナンス（維持管理・改善）	道路や交通安全施設などの公共施設、地域の環境（美観、災害の危険箇所、文化財や自然環境など）の状況を点検（パトロール）する体制を官民連携で構築する。点検の結果、毀損や危険箇所、ゴミの散乱などが確認された場合には、適切な役割分担と連携のもとに、維持管理や改善・整備に取り組む。	◎	◎					



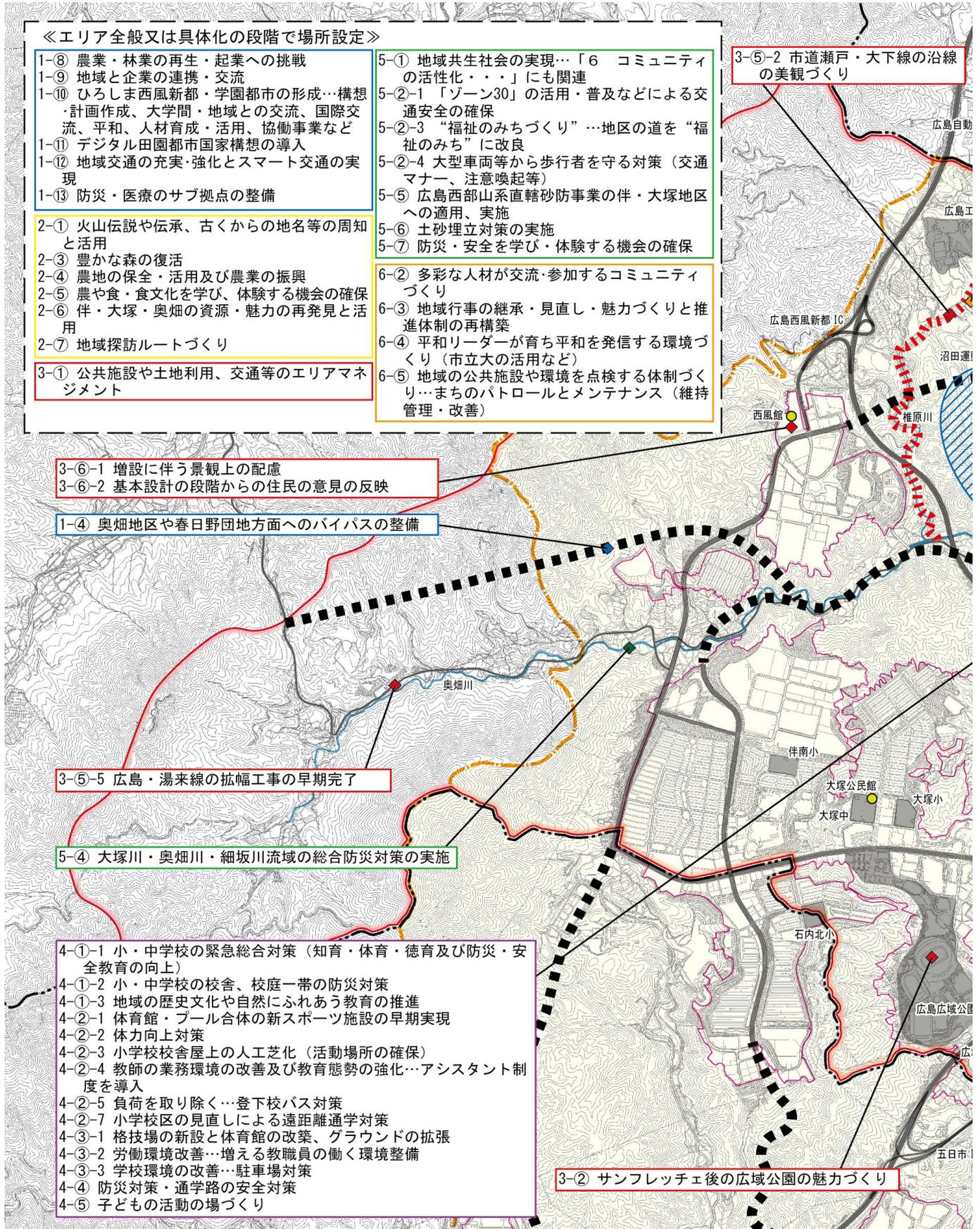
沼田合同庁舎「火山館」

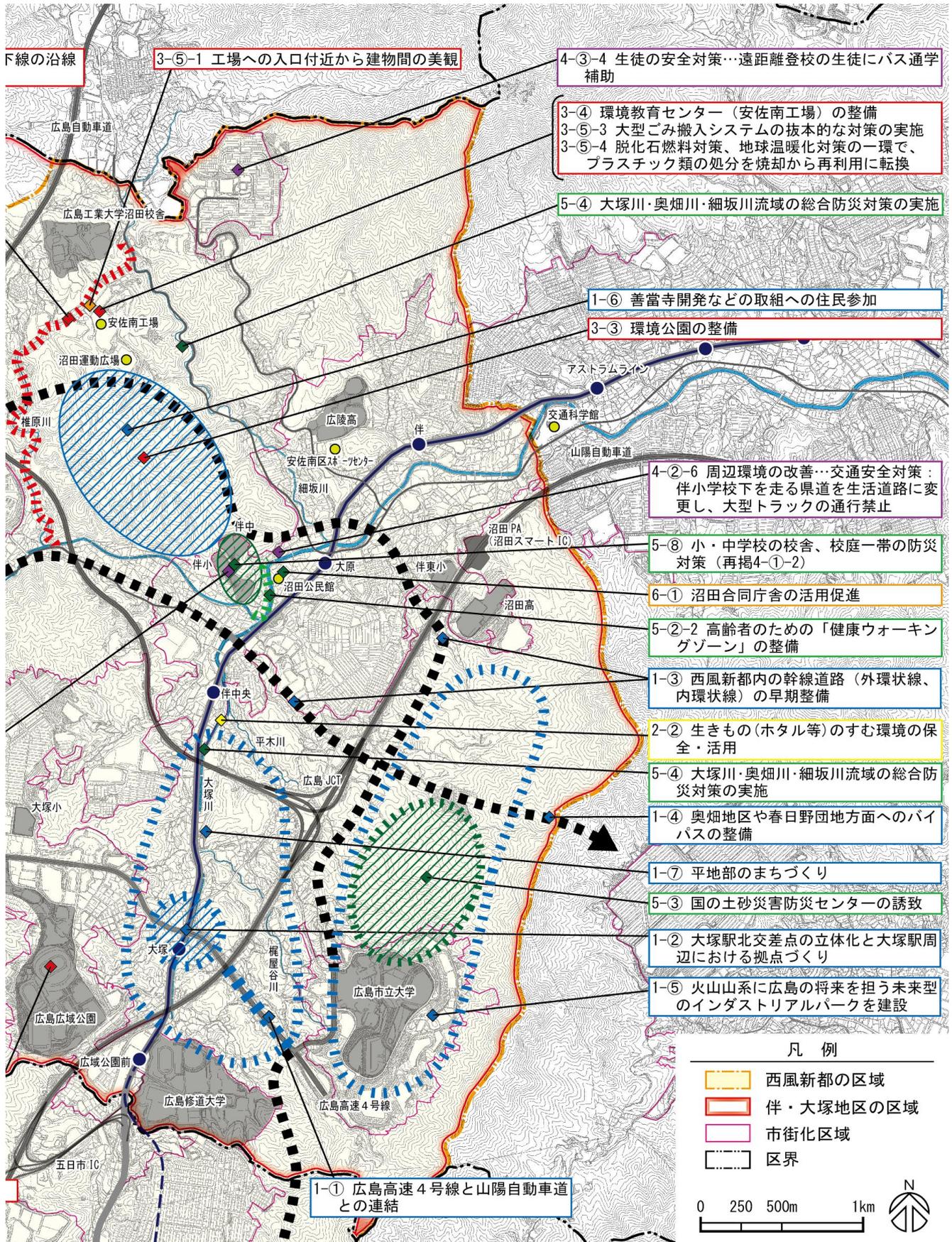


広島広域公園とその周辺の航空写真（令和2年撮影）

■まちづくり構想図

前記の取組を図化すると、次のようになります。





下線の沿線

3-5-1 工場への入口付近から建物間の美観

4-3-4 生徒の安全対策…遠距離登校の生徒にバス通学補助

3-4 環境教育センター（安佐南工場）の整備
 3-5-3 大型ごみ搬入システムの抜本的な対策の実施
 3-5-4 脱化石燃料対策、地球温暖化対策の一環で、プラスチック類の処分を焼却から再利用に転換

5-4 大塚川・奥畑川・細坂川流域の総合防災対策の実施

1-6 善當寺開発などの取組への住民参加

3-3 環境公園の整備

4-2-6 周辺環境の改善…交通安全対策：伴小学校下を走る県道を生活道路に変更し、大型トラックの通行禁止

5-8 小・中学校の校舎、校庭一帯の防災対策（再掲4-1-2）

6-1 沼田合同庁舎の活用促進

5-2-2 高齢者のための「健康ウォーキングゾーン」の整備

1-3 西風新都内の幹線道路（外環状線、内環状線）の早期整備

2-2 生きもの（ホテル等）のすむ環境の保全・活用

5-4 大塚川・奥畑川・細坂川流域の総合防災対策の実施

1-4 奥畑地区や春日野団地方面へのバイパスの整備

1-7 平地部のまちづくり

5-3 国の土砂災害防災センターの誘致

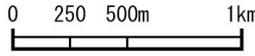
1-2 大塚駅北交差点の立体化と大塚駅周辺における拠点づくり

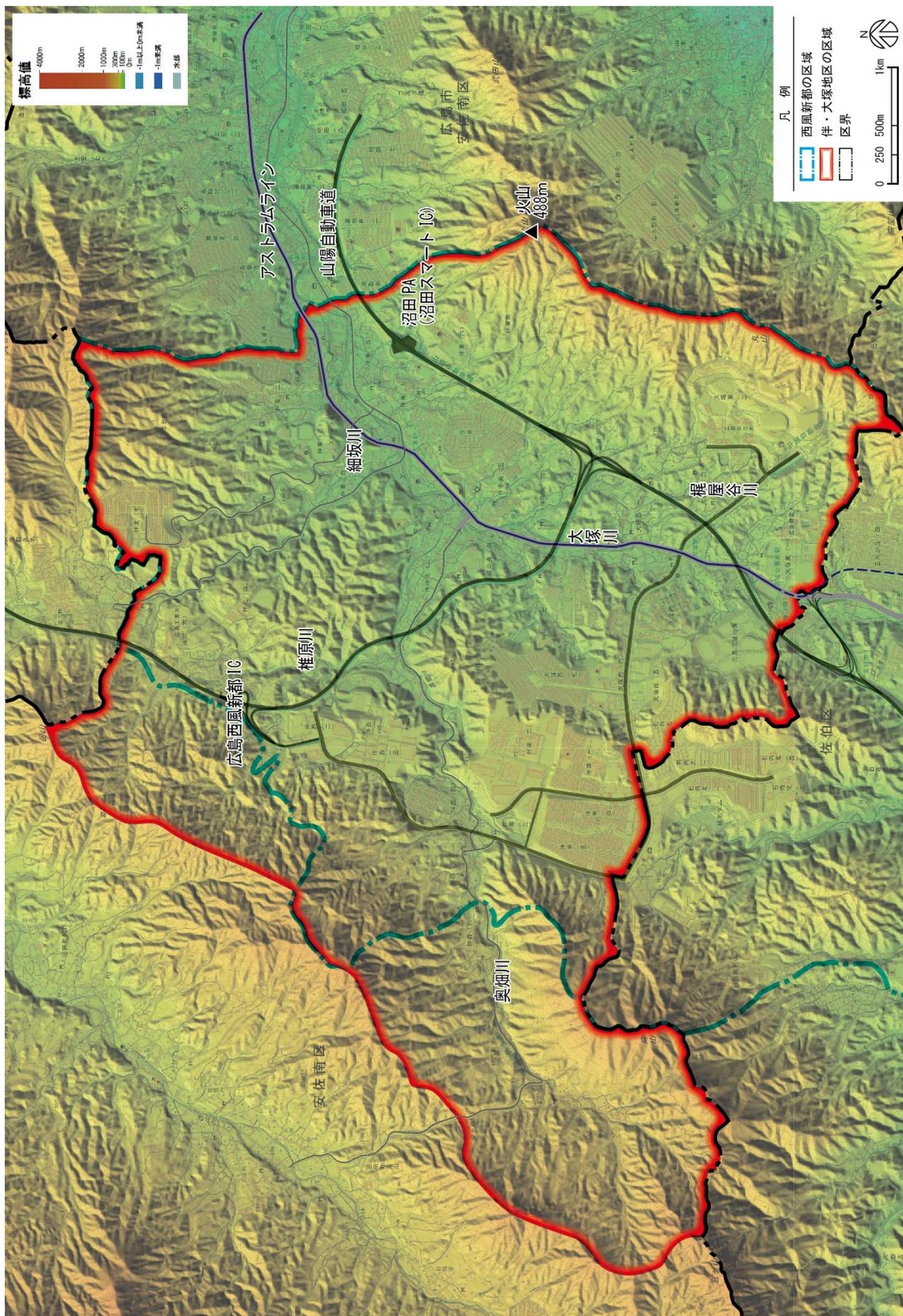
1-5 火山山系に広島を担う未来型のインダストリアルパークを建設

1-1 広島高速4号線と山陽自動車道との連結

凡例

- 西風新都の区域
- 伴・大塚地区の区域
- 市街化区域
- 区界





■伴・大塚地区一帯の地形（※国土交通省国土地理院「電子国web（2021.10.1時点）」をベースに加工・編集）

第7 ビジョンの実現に向けて

1 全体的な推進体制

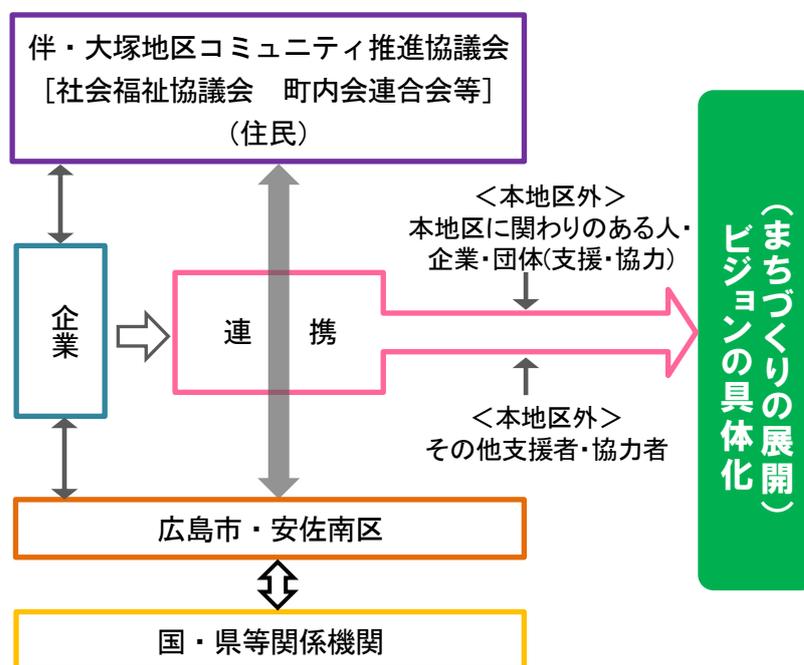
ビジョンに掲げるまちづくりの理念と目標に基づいた取組を実行し、将来像（目指す姿）を実現するため、伴・大塚地区コミュニティ推進協議会等の地域団体（住民）と広島市・安佐南区が連携し、基軸となる推進体制を充実させます。

また、本地区に立地する企業と地域団体、広島市・安佐南区との意見交換の場の確保や情報の共有化に努めます。

さらに、広島市を通じるなどして、国・県等に係る事業の導入や制度の活用を図ります。

こうした住民、企業、行政の連携のもとに、状況に応じて本地区に関わりのある人・企業・団体等（本地区外）の支援・協力を得ながら、ビジョンの具体化に取り組みます。

【ビジョン（まちづくり）の実現に向けた全体的な推進体制】



※この図解は令和2年(2020年)11月9日開催の伴地区コミュニティ推進協議会の役員に提案し、承諾いただいた「西風新都の新展開に関するメモ＝まちづくりの新たな営みを求めて＝」を基本に、一部追加（企業、国・県等関係機関、本地区に関わりのある人・企業・団体など）しています。

2 推進体制の強化と担い手づくり

ビジョンに位置づけた取組は、行政が主体となる取組とともに、地域（住民・地域団体等）が主体となる取組もあります。また、行政が主体となる取組も、地域の協力・支援が重要となります。

このため、ビジョンに位置づけた取組（特に地域が主体となる取組）については優先順位を設定し、具体化に向けて伴・大塚地区コミュニティ推進協議会に部会などを設け、実際に活動する体制を構築することが効果的です。併せて、部会などの担い手を、住民等（地域住民、本地区で働いている人、事業者等）から確保し、育成することも必要となります。そのために

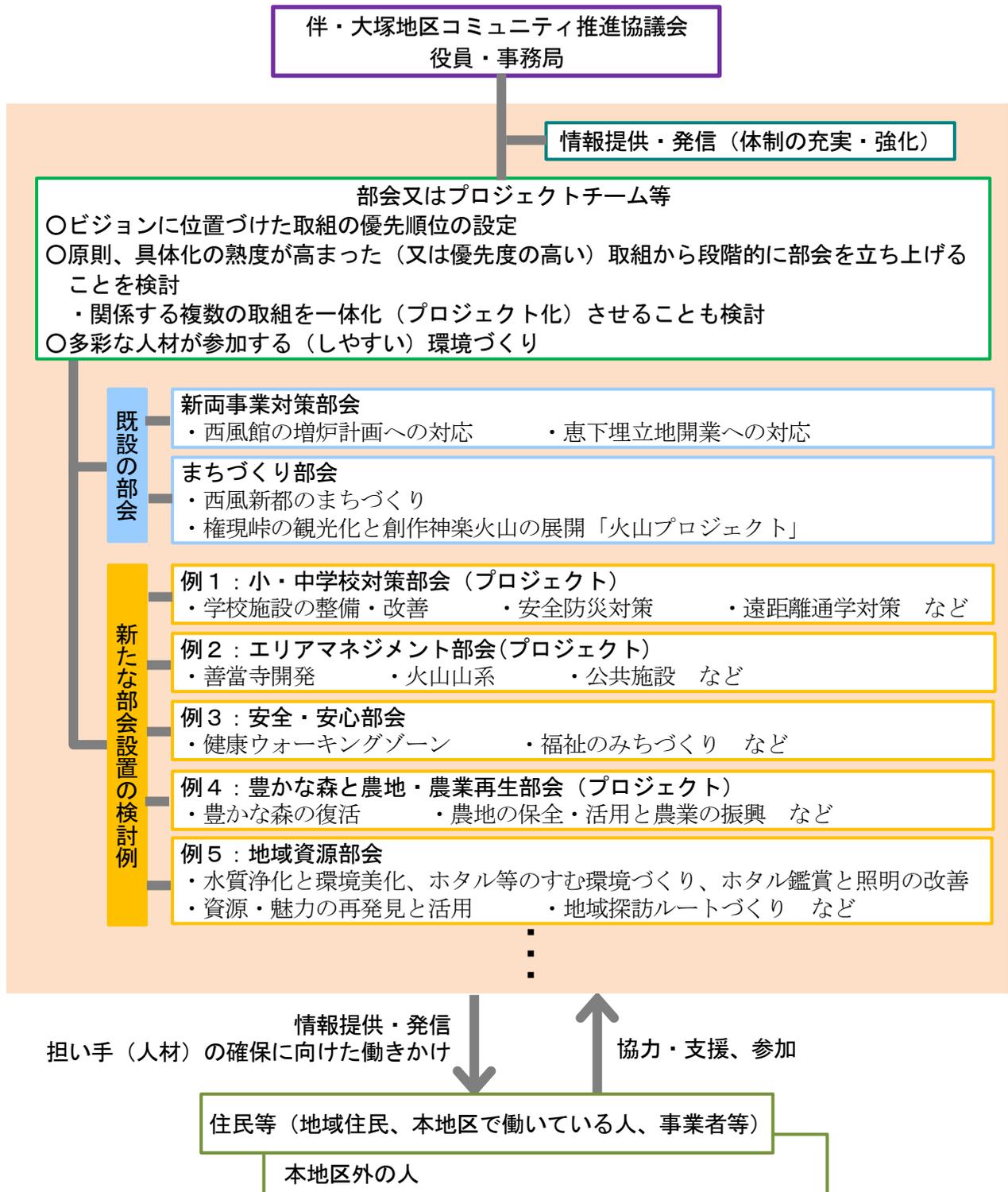
は、若い世代や女性を含め多彩な人材が参加する・参加しやすい環境づくりが求められます。

加えて、担い手の確保・育成にも関係しますが、ビジョンや地域における活動などを住民等に周知・発信するための情報提供・発信体制の構築も求められます。

なお、担い手については住民等を中心としますが、本地区外の人との協力・支援も含めて検討することとします。

こうした地域における体制づくりの案を次のように設定します。今後、実際に活動する中で、部会等の設置や体制の充実・強化を図っていきます。

【伴・大塚地区コミュニティ推進協議会の体制の強化（まちづくり推進）に向けた組織（案）】



3 ビジョンの進行管理

ビジョンに基づくまちづくりの展開においては、新たな状況、地域住民の意見などを的確にしつつ、ビジョンの見直しや改定に柔軟に対応します。

4 ビジョンの具体化や体制（態勢）づくりに向けた留意点

ビジョンの具体化やそのための体制（態勢）^{※6}づくりにおいては、前述のような組織づくり（体制、担い手の確保）、情報の共有化、広島市等との連携などが必要となります。

これらについての留意点、考え方（視点）などを、ワークショップで出された意見を基本的に整理します。

■情報の公開と共有化

- ・皆が納得できる検討プロセスを公開
- ・地域における情報の共有化（情報共有できる組織）

■活動への参加

- ・楽しさを感じる活動・部会→それができる方法を見出す
- ・オンライン参加

■住民の意見・思いの把握

- ・多様な意見を把握する受け皿（現状では声を届ける仕組みがない）
- ・若い人（高校生など）の意見を取り入れる仕組みづくり

■組織づくり

- ・全体をまとめる組織が必要
- ・具体的なことを考えていける組織づくり
- ・負担感は少なく必要ときに話せる組織に
- ・テーマに応じた部会により重点を考える

■地域における交流・連携

- ・学生・若い世代と上の世代の連携
- ・地域の各種団体との連携
- ・企業、事業者と協力して進める形づくり→お互いの意見を伝え合える形
- ・産官学でのつながりづくり

■人材の確保

- ・パソコン・ウェブサイトの上手な人・組織を組み込む（必要に応じて有償）

■広島市等の支援（連携）

- ・広島市の支援（財政を含め）が不可欠
- ・広島市に賛同・合意を得る工夫（地域として）
- ・国が進めたい政策を地域から出していく

※6 体制と態勢

体制は、一般的には「システム」「組織」を指す。また、恒常的な組織や制度を言うときは、「体制」が使われる。

態勢は、その時々状況に対する身構えのことを言い、「受け入れ態勢」「即応態勢」「出動態勢」のように用いられる。ただし、「いかなることにも即応できる体制をつくる」「いつでも出動できる体制をつくる」などの場合は「体制」のほうが適切と考えられる。

「組織」と「身構え」のどちらに重点を置くか、また、その組織が「恒久的」なものか「一時的」なものかで使い分けをすることになる。

参考資料：NHK放送文化研究所「最近気になる放送用語」

資料1：第1回・2回のワークショップで出された意見

区分	地区の強み（資源・魅力）	地区の問題点（困っていること、心配な点）・留意点	取組（考え方などを含む）⇒ビジョンの取組への反映
コミュニティ・連携・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティが良い（町内会等） ・地域ぐるみの行事が盛んである（コロナ前）（町内会運動会、盆踊り、神楽を呼ぶ） ・昔からの住民と新しい住民との良い“混住”が進んでいる（地域活動で交流関係） ・「汽水域」の新と旧…新しい住民と旧来から住んでいる住民が「汽水域」のように混じり合い一体となっている ・連携（沼田）…戸山地区を含めた沼田町全体での連携（多様な環境） ・地域の催し物が多い（コミュニティの充実）（コロナで大半が中止） ・地域の力（人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会、老人会の役員になる方が少なく、今後が不安 ・町内会脱会、子ども会消滅 ・地域活動が単体では維持できない、あらゆる面で単体での事業運営は困難になりつつある ・担い手の高齢化、固定化等 ・地域で子どもを育てる意識の低下 ・行事が続かなくなる ・負担、やらされ感 ・参画が少ない ・多様性←→伝統 ・新旧の町 ・活動の改善が進まない ・地域の課題を解決するための意見集約が分かりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・進出企業と地元住民の情報の共有化（通学路関係、災害関係等） ⇒1⑨ 地域と企業の連携・交流 ・行政事務等沼田町で完結するような仕組み、システムづくり ⇒6① 沼田合同庁舎の活用促進 ・町内会、子ども会運営実務の簡便化、システム化による負担軽減策の検討 ・地域整備に係る地域の意見要望の集約システム ・御用聞き（末端まで） ・町内会長、子ども会お困りサミット ・げんき会的なもの（相互に交流、支援） ・「足高の制」のような仕組み ※禄高は少ないが才能のある人材の要職登用を容易にする制度（8代将軍・徳川吉宗の時代） ・地域の「つなぐ課」 ⇒6② 多彩な人材が交流・参加するコミュニティづくり ・行事の縮小・新設（地域の実情に合わせる） ・横断的行事 ・大文字焼き ⇒6③ 地域行事の継承・見直し・魅力づくりと推進体制の再構築 ・国際平和文化、この地区としてどう担うか ⇒6④ 平和リーダーが育ち平和を発信する環境づくり ・10/16 広域公園まつり（アジア大会）国際的な視点を含めた祭りに ⇒3② サンフレッチェ後の広域公園の魅力づくり
人口・子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校の際あいさつ ・子育てするには良い環境にある（落ち着いている、大人しい子） ・人口が多い ・子どもが多い ・新たな開発による人口の流入・増加 ・大塚中央開発、新たな団地、人口流入 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び場の拡大 ・公園が必要 ・遊び場 ・過疎、過密地域の格差、少子高齢化の地域差、祭、行事の維持が大変 ・子どもが帰ってくるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少と経済活動（50年後） ⇒「1 “200万人広島都市圏構想”の中核を担う西風新都の都市力づくり」(P9のまちづくりの目標)の基本認識とする ・自然と子どもが住みやすい場所としてアスレチック施設をつくる ・田んぼで野球大会 ⇒4④ 子どもの活動の場づくり

区分	地区の強み（資源・魅力）	地区の問題点（困っていること、心配な点）・留意点	取組（考え方などを含む）⇒ビジョンの取組への反映
学校・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、高校にめぐまれている ・大学等の教育施設（市立、修大、都市学園等） ・広島修道大学や市立大学がある若者が集まる街 ・大学や専門学校の学生が多く住む、通る ・教育施設の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の立地が土砂 RED に重なる ・高校生の自転車通学のマナーの問題 ・下地地区の川沿いの通勤時間帯の交通事情と登校時の安全が確保できない ・通学路の安全確保（久地通り） ・通学路の安全確保が不十分なところがある（歩道がない、道が狭い、土砂） ・バス通学は先生、子ども共に大変で、学力低下となる（学校のつくり、場所） ・遠隔通学 ・小中学校への通学路の勾配がづらい、狭い道、暗い道なのでスクールバス等あれば ・通学路の整備の検討 ・通学路の問題は共通 <p><i>注）斜体の文字は第2回ワークショップの意見（以下同様）</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伴小の人数が多く問題が出ているので、伴駅付近は伴東小に変更したら通学時間も短縮できるのでは ⇒4②-7 小学校区の見直しによる遠距離通学対策 ・学校の安全な場所への移転 ⇒4①-2 伴小・中学校の校舎、校庭一帯の防災対策 ・バス通学の人員配置による先生方の負担軽減（若葉台） ⇒4②-4 教師の業務環境の改善及び教育態勢の強化 ・通学路について時間帯を設けて時速 30km 以下に限定する ・通学路の交差点のカラー舗装化 ・通学路の確保、スカイレール等 ⇒5②-1 「ゾーン 30」の活用・普及などによる交通安全の確保 ・スクールバス等子どもたちの通学負担を軽減 ⇒4②-5 負担を取り除く…登下校バス対策 ⇒4③-4 生徒の安全対策…遠距離登校の生徒にバス通学補助 ・学校がすてきな人が入ってくる ⇒学校教育における各取組の基本的な考え方とする ・地域の歴史文化にふれあえる教育 ・中学生の職場体験などは受入可（企業） ⇒4①-3 地域の歴史文化や自然にふれあう教育の推進
居住環境 田園・学園	<ul style="list-style-type: none"> ・下地地区は病院、買い物場所等近くに多数あり、非常に便利 ・生活に必要な店舗が揃っている ・スーパー、病院、コンビニ、ドラッグストア ・スポーツ施設（ビッグアーチ）がある ・都市と農業地域との中間点にある ・周辺部の宅地造成→住環境 安川沿いには多くの病院がある ・緑があり、住みよいまち 都心に近い便利な場所 ・まちづくり良い居場所 住む、働く等すべてが揃っている町 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職場所として企業の誘致が不足 ・大学等との連携を感じない、通学に通っているだけ、地元根付かない 	<ul style="list-style-type: none"> ・田園都市であり、学園都市 ・学生が憩えるまちづくり→東広島市 ・住民が参加する国際・平和 ・各大学等の連携 ・地域で働きやすくなるよう（大学でのインターンシップ） ・外国人の就学、生活支援 ⇒1⑩ ひろしま西風新都・学園都市の形成…構想・計画作成、大学間・地域との交流、国際交流、平和、人材育成・活用、協働事業など ・ビッグアーチ（陸上、その他のスポーツ）の整備、イベント、大会（サンフレッチェ移転後を見据えた動きを） ⇒3② サンフレッチェ後の広域公園の魅力づくり

区分	地区の強み（資源・魅力）	地区の問題点（困っていること、心配な点）・留意点	取組（考え方などを含む）⇒ビジョンの取組への反映
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市中心部へのアクセスが良い ・自動車での利便性が良い。広島高速4号線、五日市・西風新都 IC、草津道路等へのアクセス◎ ・交通アクセス（広島高速4号線（バス）、アストラムライン、インターチェンジ） ・地区内に3つのICがあり、他地区へのアクセスが便利 ・アストラムラインや広島高速4号線で市中心部へのアクセスも便利 ・高速道路が便利 ・アストラムラインで交通の便が良い(市内まで30分くらい) ・高速道路が近い（多様な交通） ・交通の便が良い（アストラムライン、バス、高速） ・沼田スマート IC ができ、アクセスが良くなった ・市中心から15分 ・中心部へのアクセスが良い（広島高速4号線） ・草沼道路、人の目にふれる（活力） ・草沼道路は問題点にもなり得るが、多くの交通量がある、つまり人の目にふれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚駅北交差点を中心に交通渋滞が激しい（夜以外ずっと） ・渋滞（時間帯） ・大塚駅北交差点の交通渋滞、事故 ・通勤時間帯のラッシュ（大塚駅付近、伴-伴中央） ・大塚・大原の交差点の渋滞 ・交通渋滞 ・生活道に通過交通が流れこんで非常に危険 ・道路が混み合うことが多い ・観音山開発地からの交通増 ・消防車が1台入ると目一杯の小さい道路が多い ・道路網を整備しないまま大型施設を先行設置 ・場所によって道路が狭く、車、自転車の交通が多いので子どもたちの安全が心配 ・車が多くなり道が少ない ・歩道が狭い、段差がある道もあり、歩行者にやさしくない ・交通（トラック等） ・車が多い（通り抜けているのか） ・道が狭い ・道路計画の中断か 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市センター地区の開発を支援し、交通渋滞解消のためのバイパスを整備 ・道路の幅を拓げる、立体交差 ・ペDESTリアンデッキ（大きな交差点） ⇒1① 広島高速4号線と山陽自動車道との連結 ⇒1② 大塚駅北交差点の立体化と大塚駅周辺における拠点づくり ・春日野とのバイパスづくり ・道路問題の検討、バイパス ・計画道路を進める ・計画道路の完成 ⇒1③ 西風新都内の幹線道路（外環状線、内環状線）の早期整備 ⇒1④ 奥畑地区や春日野団地方面へのバイパスの整備 ・コミュニティバス ・バスコミュニティ（あいさつ、見守り等） ・スマート交通（脱炭素） ・山陽自動車道短距離割引（五日市 IC と広島 IC 間など） ⇒1⑫ 地域交通の充実・強化とスマート交通の実現
都市計画 地域開発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域整備が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚地区の平地部は市街化調整区域のため歩いて行ける利便施設がない ・市街化調整区域が多く、未活用の土地が多い ・大塚地区の平地部は下水道整備が進んでいない ・平地部（旧集落）の整備が全く進んでいない、アストラム駅（市街化調整区域）→幹線のみ整備 ・市街化調整区域から市街化区域に ・市街化調整区域の活用（都市住民、災害抑止） ・200万人都市の維持が難しくなる、広島市として足りないものは ・2013の構想から変化が進んでいく中でどう考えていくか 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの推進、民間＋行政の協働によるインフラ整備 ・市街化調整区域の活用公募 ・市街化調整区域から市街化区域に ・西風新都中央線沿いに下水道の幹線を入れ、周辺の開発を支援し、急傾斜地を解消すべき ・自然・農地を残すところ、開発するところを考えて進めていく ⇒1⑦ 平地部のまちづくり ・都市センター地区の開発を支援し、生活利便施設を誘致して学生達も暮らしやすい環境にすべき ・市街化調整区域→都市センターとしての開発を提言 ⇒1② 大塚駅北交差点の立体化と大塚駅周辺における拠点づくり ・火山山系、善當寺地区の開発を目玉にする ・善當寺開発で産業用地確保 ⇒1⑤ 火山山系に広島の将来を担う未来型のインダストリアルパークを建設 ⇒1⑥ 善當寺開発などの取組への住民参加 ・エリアマネジメント（環状線、土砂埋立、スマート交通）→渋滞対策、企業用地がない ⇒3① 公共施設や土地利用、交通等のエリアマネジメント ・デジタル田園都市 ⇒1⑪ デジタル田園都市国家構想の導入 ・広島の新たな拠点（例：県庁） ⇒1⑤火山山系に広島の将来を担う未来型のインダストリアルパークを建設において考慮

区分	地区の強み（資源・魅力）	地区の問題点（困っていること、心配な点）・留意点	取組（考え方などを含む）⇒ビジョンの取組への反映
<p>防災・土砂災害・安全安心</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大型の土砂の埋立処分場が乱立している ・残土の埋立が多く不安 ・防災整備 ・土砂災害警戒区域が多く、まだまだ防災が不十分 ・山も多く残っており、急傾斜地崩壊危険箇所が多いので危険 ・土砂災害の危険地域が多い（処分場まで、交通網、アクセス） ・荒れた山林の土砂災害等のリスク ・危険区域が近くにあり、水害等不安がある ・災害・デルタを避けた交通の便 ・この地域に防災拠点 ・イエロー、レッドゾーンの解消 ・防災が課題のまま ・市民病院など大きな病院がない ・人口の増加に対応した体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋立処分場までの車両が通行する際の注意喚起 ⇒5②-4 大型車両等から歩行者を守る対策（交通マナー、注意喚起等） ・土砂処分場を作れないよう規制を厳しくすべき ・残土について企業との定期的な意見交換 ⇒5⑥ 土砂埋立対策の実施 ・イエロー、レッドゾーンの整備 ⇒1⑦ 平地部のまちづくり ⇒火山山系、善當寺地区の開発に反映 ・防災・医療のサブ拠点 ・防災・病院の拠点づくり ・沼田地区にヘリポート ⇒1⑬ 防災・医療のサブ拠点の整備 ・通学路の縁石（団地内など）…歩行者レーン等の確保 ・人の安全・安心（防災、交通） ・ゾーン30の通行ルール厳守 ・横断歩道での歩行者優先のモデル地域化 ・歩道上には車を止めないルールのモデル地域化 ⇒5②安全・安心に登校でき、気楽に健康ウォーキングできる歩行環境づくり ・防災でも子どもに関連を優先しては ⇒4①1 伴小・中学校の緊急総合対策（知育・体育・徳育及び防災・安全教育の向上） ・防災、炊き出しなどを学ぶイベント体験 ・企業と地域で防災訓練 ⇒5⑦ 防災・安全を学び・体験する機会の確保 ・五日市断層を考慮 ⇒5⑤ 広島西部山系直轄砂防事業の伴・大塚地区への適用、実施 ⇒その他、防災対策において留意 ・地域特性を活かした防災基地づくり ⇒1⑬ 防災・医療サブ拠点の整備
<p>農地・農業、山林</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・山間の為大規模な農業に不向き（後継者がいない、耕作放棄地） ・農業の位置付けが不明確（都市住民の利用、災害の抑止） ・農業用水路 ・田畑農業従事者の高齢化 ・山林の状態や境界といったところが分からなくなる ・農地の後継者問題 ・農地・農業用施設の防災面の役割の再認識 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業はどうあるべきなのか？土地所有者と耕作希望者のマッチング→安全・安心なまちづくり ・副業モデル（生産人口を増やす） ・キクイモなど特産品づくり ・若者による農業サポート（大学と連携？） ・水路を大切に ・田んぼアートな取組 ・田んぼで野球大会 ・④農地の保全・活用と農業の振興+食・防災 ・新たな農業団地、学びの場 ・農や食や食文化を学び、体験する機会 ・伴東小、大塚小、伴小で田植体験（イモも）、イベントで売ることも ⇒1⑧ 農業・林業の再生・起業への挑戦 ⇒2④ 農地の保全・活用及び農業の振興 ⇒2⑤ 農や食・食文化を学び、体験する機会の確保 ⇒4④ 子どもの活動の場づくり：農地の活用

区分	地区の強み（資源・魅力）	地区の問題点（困っていること、心配な点）・留意点	取組（考え方などを含む）⇒ビジョンの取組への反映
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊か、きれいな川・山がある ・自然が豊か ・豊かな自然 ・自然豊かな大塚川（ホタル、虫、周囲の田んぼ） ・豊かな自然 ・都心に近いが、オオサンショウウオ、カワウソ、カワセミ、キジなどの自然動物がいる ・広島南アルプスの一角である火山石山の自然 ・火山 ・火山に桜の木を植えている、自然への魅力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が減っている ・川沿いが発展することでホタルが減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然保護 ・水路を自然の生物がすむ環境に。道路のそばへ確保 ・ホタル保護のため川沿いの商業施設の照明の遮光等 ・一斉消灯 ・人工水路 ⇒2② 生きもの（ホタル等）のすむ環境の保全・活用 ⇒2③ 豊かな森の復活 ・自然を楽しむコミュニケーションの散策ルート ⇒2⑦ 地域探訪ルートづくり ・自然調査（動植物）、地質調査、断層調査 ⇒2② 生きもの（ホタル等）のすむ環境の保全・活用
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ・世界に移民を出している ・菅原道真 ・権現峠 ・岸城跡 	<ul style="list-style-type: none"> ・名所に人が集いすぎる（駐車場がない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財をどう生かすか（岸城→ただの荒れた山） ・歴史文化の継承（沼田町という名前、歴史） ・古代の歴史から伝承して、この地域への愛着を育てる ・移民資料館を作り、難民支援をする特区 ・山体崩壊（言い伝え）古い地名の継承 ⇒2① 火山伝説や伝承、古くからの地名等の周知と活用 ⇒2⑥ 伴・大塚・奥畑の資源・魅力の再発見と活用 ⇒2⑦ 地域探訪ルートづくり
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・国際平和都市広島の西風新都、副都心という価値 	<ul style="list-style-type: none"> ・西風新都の概念自体が不明（十分周知されていない） ・地域全体のビジョンが共有されていない ・平和都市又は中国地方の中心としての役割を担うシンボルがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・西風都市のイメージづくり ・副都市の位置づけ ⇒「1 “200万人広島都市圏構想”の中核を担う西風新都の都市力づくり」に反映 ・長期に滞在する平和リーダーを育てる ⇒6④ 平和リーダーが育ち平和を発信する環境づくり（広島市立大学の活用など） ・行政にお願いしていることは行政として取り組んでほしい、先延ばしになっている ⇒意見を行政に伝える。 ・設備点検の充実（新しいものばかり作るのではなく既存設備の利用、延命化、削減） ・住民・企業参加による美しいまちづくり ・保守ができない道路上設備の撤去 ⇒6⑤ 地域の公共施設や環境を点検する体制づくり…まちのパトロールとメンテナンス